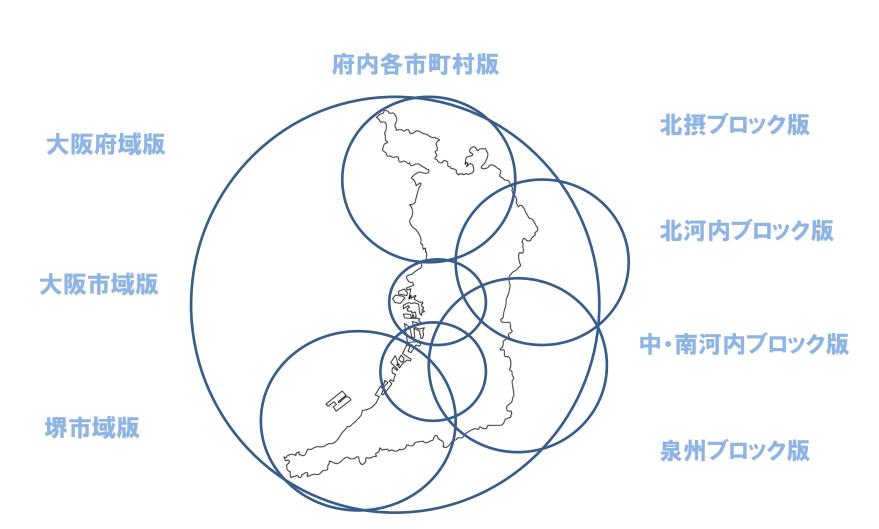
大阪維新の会 吹田市マニフェスト

大阪維新の会 マニフェスト2019

大阪府域全体の広域戦略を進めるとともに、府内各自治体、及び中広域ブロックから総合的に施策立案を展開していく



項目	具体的施策	現状・課題認識
議会改革 身を切る改革 吹田市議会まだまだ 維新の改革が必要	・議員定数の削減 ・議員報酬の3割カット ・高すぎる政務活動費 (年間132万円/議員) の適正化	・議員の身分にかかわる議論が避けられてしまう議会 ・高水準な議員報酬 ・近隣他市平均の2倍以上の政務活動費(吹田市除く北摂6市平均:年間61万円/議員)

項目	具体的施策	現状・課題認識
市役所改革	①民間並みの人事評価・ 給与制度を導入	増え続ける職員数30年度は、27年度と比較して261名の常勤職員の増加
市民のための市役所へ!	②増え続ける職員数の適 正化	非常勤・臨時雇用員を含めると 346人も増加している
維新の力で抜本改革	③労働組合と役所の関係 を適正化・労使交渉の 公開	上がり続ける職員の給与ボーナス。 特別職報酬等審議会に諮問することな く、市長部局は増額提案を議会に提出 し続けている
	④頻発する不祥事の撲滅、 外郭団体が天下りの為 に存在することがない よう適正化	• 頻発する不祥事 2.8倍増 吹田市職員の不祥事が続発している 前市長時代と比べて平均29件から 平均81件に大幅に増えている
	⑤入札予定価格積算を厳格化することによる公共事業費の適正化	・入札が適正価格ではなく設定価格予想 が追及されてしまうおそれのある状況 である

項目	具体的施策	現状・課題認識
子育て	①幼児教育・保育の充実	・市は、待機児童解消アクションプラ ンによる整備数を縮減
ガッチリ支える 子育て	②待機児童ゼロ!多様な 形態の保育を選べる保 育環境を整備	• 待機児童ゼロ目標が精一杯で、実際 には定員オーバーの詰め込み実態
	③子ども医療費助成・妊婦検診費助成の拡充	・吹田市の子ども医療費助成は15歳までで、他市と比べて範囲が狭い ・妊婦検診は現行の助成範囲ではカバーできていない範囲が多い 14回の助成はあるが一部負担である

	具体的流

教育

国際社会で活躍でき る教育・安心安全な 教育環境の整備

- ①小中学生を対象とした 習い事クーポンの発行
- ②教育施設のハードの充 実させる
- ③ | CT機器を活用した更な る教育の強化
- 4教職員人事権の移譲

- すべての子どもたちが十分に教育の 機会を得られるべき
- ・子どもの個性に応じて能力を伸ばす 教育が必要
- 子ども達の教育環境整備に十分に予 算が配分されていない 安全、安心の為、小中学校の施設や設 備の回収や整備を積極的に実施すべき
- ・昨今、教員の不祥事が多発している 状況を改善する必要がある

項目	具体的施策	現状・課題認識
福祉•医療	①介護予防の推進と健康 寿命の延伸で介護保険 料を値下げを目指す	介護保険料が上がり続け、高槻市な どと比較して保険料も要介護認定者割 合も多い
健康で豊かな生活 を実現	②不妊で悩まれている方 など、困難な状況にあ る方を支援	・行政による医療福祉サービスを必要 とされておられる方々は、一様ではな く、きめ細やかに、様々な需要に応え ていく必要がある
	③中核市権限を生かした 障がい児・者への切れ 目ない支援体制の拡充	・JR岸辺駅前に北大阪健康医療都市と して整備を進めているが、ハードばか りでソフトの具体的施策はほぼなし
	④建都に集積する知見を 活かすと共にICT・ IOTを積極活用した 健康増進	・健都のコンセプトは2025大阪万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」 理念とマッチするものだが、1970大阪万博開催都市でありながら連携施策 はなし

項目	具体的施策	現状・課題認識
観光・都市 魅力	①大阪府市と連携して 2025年大阪万博(サ テライト会場)の吹田 誘致を積極的推進	・万博記念公園が立地しているが、本市の健康医療都市のまちづくりと、その目標を一にする大阪万博との連携が進められていない
大阪万博を再び吹田へ	②2020年吹田市政80 周年に向けて全市的 なイベントの開催	・中核市を目指し、健康医療のまちづくり を進めている本市のアピールチャンスと考 える
	③「吹田マラソン&ウ オーキング大会」の 開催	・周年行事は健康医療のまちづくりのコンセプトとして、適切な運動を提案する機会である
	④「太陽の塔」の世界 文化遺産登録を目指す	・万博記念公園が立地しているが、その利点を十分に活かしきれていない

項目	具体的施策	現状・課題認識
安心•安全	①人にやさしいバリアフ リーのまちづくり	・需要があるところからのバリアフ リー化が必要だが、行政の評価や都合 による順序とも見受けられる
命を守るまちづくり	 ②救急隊の更なる配備、救命率の向上を目指す ③ビッグデータを活用した交通事故防止対策 ④災害に強いまちづくり・旧基準の公共施設を周知・改修で安全性を確保・災害時情報伝達の仕組み作り・備蓄品の拡充、災害時ネットワークの充実 	による順序とも見受けられる ・財政状況から鑑みて、増隊ペースは遅々としている ・交通安全は対処療法から可能な限り予防対策へとする必要がある ・子どもや高齢者が利用する施設の安全性は、現状を把握したうえで、早急に改善する必要がある

項目
インフラ・ 交通
将来に過度な負担 を残さず 利便性の高いまち づくり

具体的施策

- ①大阪市から吹田市内駅へ の鉄道網の延伸
- ②府市連携公共ネットワークで渋滞の緩和を図る
- ③大阪府をはじめ近隣自治 体と協力した広域連携を 推進
- ④上下水道統合化等の改革 で財源確保

- ・自転車は電動自転車が一般的となりました 自動車は1989年の制度改正以降大型 化が進みました また自動車や自転車の交通量は増加しました これらに対応する交通インフラ整備が必要です
- ・本市は36kmに15もの旅客鉄道駅が存するが、多くが南北の鉄道網であり、 東西の公共交通インフラに課題がある
- ・借金に頼らない、インフラ更新や整備のためにあらゆる手段を検討すべき である